

## 『聴く耳と語る口』 I サムエル3章1～19節 2018.3.4(主日礼拝説教より)

『…宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう…。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりつぱでしょう。』』 ローマ人への手紙 10:14～15

神の御心を聴き、正しく語るために何が必要なのか？サムエルから学ぶ。

❶「聴く耳」を育てていただく！(2:11～26)…ハンナは、悲願の息子サムエルが乳離れした時、約束通りエリのもとへ預け、彼は主のみもとで成長した(2:21)。しかしエリの息子たちは、よこしまで主を知らず(2:12)、供え物を軽んじ、姦淫の罪を犯していた。その責任は父親エリにあった。「自分の息子たちがのろいを招くようなことをしているのを知りながら戒めなかった(3:13)」。幼いうちに罪を吐き、信仰的訓練が必要！罪は小さなうちに潰し、悔い改めを知ってこそ、聴く耳が育つ！一方サムエルは成長し、主にも人にも愛された(2:26)。御声を聴くには、神に喜ばれるだけでなく、この世的に整えられる(罪の世にあり、罪に汚れない)ことも必要！神を畏れる家庭で生まれた「三つ子の魂、百まで」！健全な人格形成は、霊的成長と深く関係し、家庭教育や社会経験によって身につくものがある！クリスチャンの『愛は礼儀に反せず』、『平和を作り出し』、『(闇の世に)光を輝かせ、人々が良い行いを見て、天の父が崇められるように(マタイ 5:16)』なるもの。「良い(カロス)」とは、「誰の目にも好ましく魅力ある」の意。100%正しいことも、愛がなければ、冷たく響くばかりか反感を…！しかし人格的に整えられ、配慮をもって語られる時、神の愛が伝わり、赦しと慰めを知り、罪深さ、裁きの恐さ、悔い改めの必要性が伝わる！その時、世の人は、神の子らの生き方、言葉、態度を見て、天の父を崇め、教会は祝される(使徒 2:42～47)。  
★目指すは、神にも人にも愛される者としての成長！日々罪を悔い改め、人としての当たり前(互いに心優しく親切で、愛し合い、赦し合うこと)が普通にできる者に！

❷「語る口」を持つ(3:1～19)…御声を正しく語るには、常に聴くこと。『主よ。お話しください。しもべは聞いております』。終わりの時代、神は全てのクリスチャンに語られる(ローマ 10:13～15)。滅び行く人々は目の前！『ここに、私がおります。私を遣わしてください(イザヤ 6:8)』と応答したい。

★今年、目の前の「一人」のために祈り伝道したい！クリスチャンとして、当たり前のこと(創り主とその愛を教え、罪からの救いの道を告げる)が普通にできる者に！